

平成28年度 第1回山元町総合教育会議 議事録

- 1 会議名 平成28年度 第1回山元町総合教育会議
- 2 開催日時 平成28年5月25日（水）
午後3時00分から午後4時00分まで
- 3 場 所 山元町勤労青少年ホーム 1階 講義室
- 4 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 5 概 要 以下のとおり
 - (1) 開 会
 - (2) 議 題
 - ①「教育等の振興に関する施策の大綱」について
資料1-1から資料1-5に基づき説明（説明者：佐藤学務課長）
 - ②今後の教育課題等について（説明者：佐藤学務課長、齋藤生涯学習課長）
資料2に基づき各委員討議
 - (3) その他
 - (4) 閉 会

1 開会【司会】

それでは、ただいまから、平成28年度第1回山元町総合教育会議を開会いたします。

開会にあたりまして、山元町長 齋藤 俊夫よりあいさつを申し上げます。お願いいたします。

2 あいさつ【山元町長：齋藤俊夫】

それでは、挨拶させていただきます。教育委員の方々には、何かとご多用の中、平成28年度1回目となります山元町教育総合会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この会議は昨年度の5月と10月に開催をしております、皆様のご忌憚りの無い活発な意見を賜りました。今回で3回目の会議となるわけでございますけれども、日頃から、未来を担う、山元の子どもたちや、町民のだれもが将来へ向けた夢と志を育む教育政策の実現に向けまして、大変なご尽力いただいておりますことに対しまして、心から感謝申し上げます。

全国に目を向けましても、いじめ問題、学力向上など教育に関連するニュースが連

日報道されておるわけでございまして、教育行政への社会の眼は大変厳しいものがございます。今後も今以上に関心が高まっていくものと感じております。

町としましては、このような状況からも、より一層首長と教育委員会が連携を強化いたしましてですね、教育行政の基盤を再確認した上で、今後の町の原動力となる健全な青少年の人材育成はもちろんのことでございますが、活躍の場の提供等も含めましてですね、枠にとらわれない柔軟な対応を行わなければならないと考えておるところでございます。

今日は、盛りだくさんの教育課題等についての意見交換をはじめとしまして、問題意識等を共有させていただきたいと思っておりますけれども、それとは別な関係でですね、2. 3お話しさせていただきたいと思っております。おかげさまでですね、明日、新山下駅前のスーパー、ドラッグストアですね、こちらの地鎮祭を予定おりまして、10月末のオープンに向けて地鎮祭が行われるということでございます。また、コインランドリーが整備されるということでございます。それから、シルバー人材センターのですね、10月からの設立に向けまして、今日午前中、2回目の説明会の開催を公民館で開催いたしました。あとは、明日、坂元で最後の説明会をして、設立までに最低150名は会員登録是非確保したいなと思っております。あと、子育て施設なり、第二小学校の供用開始が7月、8月となっております、おかげさまで「子育てするなら山元町」の実現に向けましてですね、着実に環境が整いつつあるのかなという風に思っているところでございます。10月には「まちびらき」を予定しておりますし、12月には、最後の、常磐線運転再開と、これも、これまでの場合からしますと、半年前には、具体の再開日時を明示していらっしゃるようでございますので、来月中にはどこかで具体の日時が確認できるのではないかなと思っております。

いろいろ、節目の場面が多々予定されてございますけれども、ひとつよろしく願い申し上げたいと思っております。

今日は、そのようなことも含めて、議題にもありますとおり、「教育等の振興に関する施策の大綱」「今後の教育課題等」について、議論を交わしたいと思いますので、限られた時間ではございますが、皆様のご忌憚無い、活発なご発言で、活発な会議になるようよろしくお願いいたします。

—以下議事—

3 議 題

【司会】

それでは、次第に基づきまして、議題に入らせていただきます。山元町総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、齋藤町長が議長となり、進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、齋藤町長お願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

はい、それでは、進行させていただきたいと思います。

議題の(1)「教育等の振興に関する施策の大綱」について、事務局から説明をお願いいたします。

【説明】(佐藤学務課長)

はい、それでは、まず、はじめにですね、右上資料1「大綱」(案)をご覧ください。

昨年5月に開催しました第1回総合教育会議で「大綱」を定め、同じく昨年10月に開催しました第2回の会議におきまして、山元町教育委員会で「山元町いじめ防止基本方針」を策定いたしました。

1枚目をご覧ください。

今回、提示する内容は、昨年10月に整備しました「山元町いじめ防止基本方針」を「大綱」においても位置付けをするために、学校教育の充実の中に「いじめや不登校のない学校づくり」として文言を加える追加案を提示しております。

なお、参考までに平成27年度のいじめの件数の資料を今日お配りしておりますが、認知件数及び認知の状況についてということで本日お配りしておりますので参考にいただければと思います。

次に、追加案、今回のこの追加案につきましては、本日の会議でご議論をいただきまして、平成28年5月改定の「大綱」として取り扱いたいと考えておりますので、よろしくご審議のほどお願いしたいと思います。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

【議長】(齋藤町長)

はい。それでは、事務局から説明がありました。

資料1の「大綱」に、「いじめ」に関する文言を追加することで、提示がありました。が皆様からのご質問、確認事項等ありましたらご発言をお願いします。

【教育委員】(大内委員)

はい、「創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員」に項目にいじめが入ってよいのでしょうか。

【教育長】(森教育長)

いじめとか不登校の観点からすると、全体として学校経営であり、先生方のお力が大きいことも考えこの項目としております。

【議長】(齋藤町長)

他の市町村の場合ではいかがですか。

【事務局】(佐藤学務課長)

はい。他の市町村の例は確認しておりませんが、教育長からお話があったとおり、その学校づくりという観点から、新たな項目を設けるのではなく、学校経営と信頼される職員という中での校づくりとの位置づけのもと、このような形で提示させていただいたところでございます。

【議長】（齋藤町長）

他の委員の皆さんのご意見はいかがでしょうか。

【教育委員】（荻原委員）

いじめや不登校のない学校づくりというのは、楽しい学校で、子どもがわくわく登校したくなる学校ということだと思いますので、創意と活力に満ちた学校経営というところで、私はいいのかなと思います。

【議長】（齋藤町長）

はい。今お話しいただいたような解釈もございますが、よろしいですか。

【事務局】（佐藤学務課長）

補足させていただきますと、県教育委員会のいじめ防止基本方針では、いじめの方針、基本方針の策定について、学校が実施すべき施策の一つに入っていることから、学校経営という観点で県も意識していると考えておりますので、ご理解いただければと思います。

【議長】（齋藤町長）

いじめに関する文言のこの大綱への追加を決定するというところでよろしいですか。

【全委員】

はい。

【議長】（齋藤町長）

はい。ありがとうございます。それでは、追加し改訂することに決定します。次に、「今後の教育課題等について」を事務局から説明願います。

【事務局】（佐藤学務課長）

それでは、右上の資料番号2をご覧ください。

教育委員会では、様々な事業を展開しておりますが、特に課題、懸案になっている事項について取りまとめた資料となっております。

これから課題、懸案となっている事業等について、町長と教育委員会が意見交換した上で、さらに推進していきたいと考えております。

なお、大項目の1と2につきましては、意見交換という形で、本日もお願いしたいと考えております。それから、大きな番号の3から5につきましては、情報提供ということで事務局からの説明とさせていただければと考えております。

時間の関係もございますので、このようなことでご理解をいただければと思います。

【議長】（齋藤町長）

ただいま事務局の方から趣旨説明がございましたが、小中学校に関しての概要を改めて事務局から説明をさせますので、その後、委員の皆様との意見交換を行いたいと思います。

事務局、説明よろしく申し上げます。

【事務局】（佐藤学務課長）

それでは、1小中学校に関して説明をさせていただきたいと思います。

まず、①の学校施設・学校周辺の環境整備対策でございますが、本日配付資料の学校施設耐震対策状況一覧の資料も併せてご覧いただければと思います。

資料から分かるように、校舎や屋体等で築年数が30年以上経過しているところもございます。このようなことから、早急に長寿命化対策を講じる必要があるとも考えており、計画的な修繕等の対策を行っていきたいと考えております。

また、坂元小学校や山下小学校、山下中学校、山下第一小学校へのアクセス道は、校門までの、町道から入っていく道路につきまして、狭いということもございまして、修学旅行時の大型バスや、児童生徒の送迎等で支障をきたす場面もあり、老朽化している校舎も含めまして、周辺環境の整備も検討していかなければならない状況となっております。

次に、②の児童生徒のマナー等規範意識の向上についてですが、一例を上げますと、つばめの杜中央公園が完成しまして、毎日、子どもたちが、楽しく遊ぶ姿が見られますが、一方では、ペットボトルやお菓子の包装紙等をそのまま捨てていく子どもたちもいるのが現状でございます。

一部の子どものマナーの悪さが原因で、せっかくの新しい街並みの全体的なイメージがダウンしてしまうということもございます。

家庭や学校、そして地域での教育について、ご意見等をいただければと考えております。

次に、③通学路等安全対策の推進についてですが、つばめの杜や坂元の新市街地内は、歩道や自転車道等の整備水準が高く、安全対策が講じられておりますが、一步、新市街地の外へ出ると歩道の未整備や、見通しの悪い交差点などがあり、町内の通学路でも、安全対策に差が生まれている現状となっております。

このような状況からも新市街地以外の通学路の安全対策を推進していく必要がありますので、委員の皆様から、お気付きの点など、ご意見として本日もいただければと考えております。

次に、④の小中学校の再編計画の検討についてですが、平成25年3月に教育委員会で策定した「山元町小・中学校教育環境整備方針」に基づき、学校再編につきましては、近々に検討する必要があると思います。

本日追加で配布いたしました、「整備方針」の12ページ、最終ページをご覧くださいと思います。

小・中学校の環境整備方針の課題として、長期的な視点から小学校を2学校区、中学校については1学校区とすることを示しておりますが、小学校では、複式学級編成の実施時期、中学校では、部活動の選択幅の確保や職員定数の配置等の課題解決を図る必要があります。

併せて、資料として、平成22年度から34年度までの児童数の推移を本日配付しておりますので、参考にしていただければと思います。

簡単ではございますが、以上、説明とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

はい。ありがとうございました。

事務局から説明がありました。

学校の施設の耐震化については、教育委員会で問題ないということですので、①については、そういう現状にあるということをご理解いただいて、②から④の関係について、意見交換をしたいと思いますので、ご発言をお願いいたします。

【教育委員】（大内委員）

②児童生徒のマナー等規範意識の向上については具体的に何か対策は考えているのでしょうか。

【教育長】（森教育長）

具体的な対策というよりは、日頃からの先生方の子どもたちへの指導と、中学生も公園でキャッチボールなどをしていて、少し危険ではないかというご指摘などがあって、中学校の生徒指導の先生が何人か公園に行ってその場で注意を促すなどの一般的な指導を行いました。

【教育委員】（齋藤委員）

今の問題ですが、地域で子どもを育てるという考え方でいくと、その地域の人達に、もっと子ども達を育てるということに関わってもらうことが大事だと思いますので、区長さんなどのお力をお借りして、子どもへの声かけを行ってもらうなどしていただいてもいいのかなと思います。

【教育委員】（島田委員）

大体対象年齢という、主にどれくらいのお子さんが公園を使っているかということになると思うのですが、小学生であるとか、たとえば小学生から中学生までとなると、対象年齢がどのくらいなのかなと思います。一番の原因は、家庭教育の中で、もう一度マナーの呼びかけをしてもらうことがよいのではないかと思います。

まず、自分の部屋を、たとえば、ごみでちらかしているのかとかいうところが基本だと思います。そこが徹底していかないことには、外に出た時にどういうマナーなのかというのが、まだ振り返らないといけないのかなと考えます。

それから、公園を汚くしてはいけない、ということの意識付けをしていくということでは、子ども達がゴミを捨ててはいけない、きれいに保とうという手作りの、看板であるとか、お互いに呼びかけ合うようなものを掲げていくとか、そういうことが出来ると、お互い気をつけていけるような意識付けになっていくのではないかなと思います。

【議長】（齋藤町長）

私も、公園のあるつばめの杜の一住人として、先ほど教育長が紹介してくれたような場面を目撃してます。

利用的には、小さい未就学の子から中学生まで、結構、土日ですと、お天気がいいと、結構4、50人は常時遊んでいる感じが見えます。

【教育委員】（荻原委員）

子ども達の意識付けということで、子ども達自身に清掃活動に協力してもらうとか、子ども達自身にきれいに使うように意識を持ってもらうために、みんなできれいにしましょうという、島田委員さんがおっしゃっていたように看板を作って、「きれいに使っていただいてありがとうございます」のような看板があると、かえってゴミを落とさないのではないかと思います。

【議長】（齋藤町長）

町では、公園周辺にはあえてゴミ箱は置いていません。

置くと、また別の利用につながるというようなことになる可能性もあることからです。

この場ですぐに結論というわけにはいかないと思います。

【教育委員】（大内委員）

学校にも、中学校区単位とか、児童会、生徒会、部活動の一環として、役割負担をお願いして、子どもがごみ拾いなどを行っているところを見れば利用者は気をつけるようにはなるのではないのでしょうか。

【教育長】（森教育長）

一例としては、年に何回かですが、山下第二小学校の子ども達が、仮設住宅や役場の敷地などのごみ拾い等をしております。そういうことも含めて、子ども達の活動の中で展開できればと思います。しかし、距離的に学校教育活動の中で厳しいところのあると思いますので、少し広い意味で、スポーツ少年団などの活動、野球なら野球、柔道なら柔道だけでなく、奉仕活動みたいによく取り入れることができれば、いつもきれいに保って、みんなが気持ちよく使える環境づくりは考えられるのではないかとも思ったりもします。

【議長】（齋藤町長）

教育長に問題意識を持っていただいて、これからの学校なり、役場の対応もありますので、その中で、少しずつでも取り組みを考えていただきたいと思います。

また、行政区とも連携を取りながら、公園も含めてこの辺一帯の環境整備につなげていくような取組を、定期的に開催できればと思っております。

次に③通学路の安全対策についてお願いします。

③は、先ほど事務局の説明もございましたが、新市街地以外での安全対策についてお気付きの点などございますでしょうか。

【教育長】（森教育長）

はい。昨日、学校と警察の連絡協議会という場もありまして、駐在所から子ども達の通学路に関しては、新しい場所だけでなく、特に従来の所で、色々と危険な場所が見られると話がありました。

そういった所は、学校や行政だけの力ではなかなか難しい面がありますが、亘理町では、去年から、都市計画課や教育委員会、PTAなど、関係者に集まっていたき、国交省に対し要望活動を実施したとのことでした。ですので、関係各課に、そういう問題意識を持ってもらう必要もあると考えております。

もし、委員の皆さんで何か危険箇所などの具体の例があれば、教えていただければと思います。

【教育委員】（島田委員）

先ほど公園のマナーというお話でしたが、交通安全という位置付けで、安全な環境を作っていただくのはもちろんですが、早急な対策が難しいとすると、その現状から自分の身をどうやって守るか、子ども達自身が、交通ルールであるとか、どちらが優先なのかとか、ここで曲がる時はどうしたらいいのかっていうような交通安全教室っていうわけではないんですが、ルール、交通ルールなどもどこかの折にふれて指導していただくとか、交通安全協会の協力をいただくとかして、最初のそういうところも、設備を整えていただくということがもとよりだと思うのですが、その認識付けっていうのも必要なのではないのかなと感じます。

【議長】（齋藤町長）

今のご指摘のマナーというのは、すでに取り組んでおります。

【教育長】（森教育長）

はい、交通安全教室ですが、各学校が4月に実施しており、歩き方や自転車の乗りなどについて実施しております。

【議長】（齋藤町長）

道路整備に関しましては、山下中と山下小の間から大堤下の方に行く道路について、改良に向けて、去年、測量調査を終えています。あともう少し具体の動きが出てくればと思います。

【教育委員】（齋藤委員）

道路改良なども大事だと思うのですが、雑草などで死角になってしまう箇所もあるので、定期的に雑草を刈り取ることも必要じゃないかと考えています。

【議長】（齋藤町長）

視界確保については、議会の中でも同じ様なお指摘がございます。各課の方でそういうことに該当するものについては、優先的に対応しているところでございますが、工事になると、皆さんが期待するようなタイムリーさに欠けるところもあるかもしれませんが、対応していきたいと思っております。

【教育委員】（齋藤委員）

田んぼ周りの道路や国道のあたりに草が沢山生えていますが、どうしたらいいのかなと思っております。

【教育長】（森教育長）

それぞれの田んぼについては所有者が草刈りを行うこととなりますが、田と田の間の道路の部分についてはおろそかになりがちです。各地区でも、年に3回ぐらいは草刈などを実施しておりますが、さらに、各地区の皆さんにも声がけしていかなければいけないかなと思います。

【教育委員】（大内委員）

国道脇など、公の所まで草刈りしていただける方はなかなかいないですね。

【教育長】（森教育長）

皆さん、自主的には難しい部分があります。交通安全だけでなく、我々としては、不審者などの心配も若干あります。いずれ、色んな方面に声掛けしたいと思

ます。

【議長】（齋藤町長）

それでは、④小中学校の再編計画の検討について、大きな問題でございます。

【教育長】（森教育長）

これは、避けて通れない道です。今まで、今回の中浜小学校の統合なども、現実的には総論賛成で、各論になってくると、なかなかその地域では、難しさがあるというのも事実です。

しかし、現実を見ると今年もそうですが、坂元中学校は、今70人台になってます。部活も限られた部活で、教員についても技術と家庭は講師対応で、本教員は定数の関係で配置にならないということで、その講師も、坂元中学校と他の中学校との兼任というのが現実です。子どもがそれで本当に幸せなのかという部分もありますので、今年はこの児童生徒の推移表を校長先生方に渡して、何か機会があるごとに、例えばPTAの役員会とか、色んな折にこれをお示しして、議論していただきたいと考えております。

【議長】（齋藤町長）

一定の児童生徒数がいた時と、少数になった時の学校施設の設置のあり方を、分けて考えなければならないと思いますが、自分達の子どもの話ですので、理解して頂くとなると難しい部分もあります。

誰を中心にして、学校の再編なり、配置を考えるのかっていうことが問われることになると思います。

【教育長】（森教育長）

地域の中で、少しずつでも議論をしていただければと思います。

中浜小学校の時もそうでしたが、大きいのは、保護者とか学校に入ってくる人達よりは、これまで地域を支えてこられた方の声が大きいです。ですので、その方々のご理解をどのようにしていただいくかということが大きいと思います。自分のお孫さんが、どのような形ならば幸せになるのか、というところを、少しずつ啓発していく必要があると思います。

【教育委員】（島田委員）

時代の流れというのはもとより、親として、どこを一番重要視したいかっていう部分は、子どもが育っていった時に、帰ってきたくなる町にしなくてはならないのではないかと思います。そのためには、一つの地区に学校は必要なのではないかと思っております。スポーツで、自分の子どもがやりたいと思う部活を選んで、上位にいけるっていう環境を与えられたら、どんなに幸せだったかっていう自分の体験

もありますが、学校がなければならないなりに、今、現実をどう生きていくかという工夫が生まれていましたし、どこが正答かはすごく難しいとは思いますが、地域に学校は要として存在するべきなのかなと思います。ただ、親になれば小さい学校だと設備もないし、部活動も選べないし、子ども達に不憫をかけると思います。

でもその中でも、やっぱり生きる力を培ってきたかなと、自分の子ども達を見て思ったりするので、そこは、一意見を述べさせていただくのであれば、地域に学校が必要であると感じております。

【教育委員】（大内委員）

現実問題として、坂元中学校の生徒数が平成34年に46名というのは、中学校として、機能するのかなと思う部分もあります。果たして、子ども達が本当に活躍できる規模なのかと考えると、統合などの方向性を出す必要があると考えます。

地域の学校というのもよくわかりますが、現実を見ると部活動は、個人的にしか出来ず、団体競技が出来ないため、部活動ということではなくなってきているのではないのでしょうか。

【教育委員】（島田委員）

その集団の部活動を好んでするお子さんが、どれくらいいるのかというところでですね。

【教育委員】（大内委員）

指導者の問題もあり、個人的な部活だと分散しますからね。教育的効果の観点からも、効率が下がると思います。

【教育委員】（島田委員）

推移を見ての考え方もありますが、誰もが子育てしたくなるような町づくりを進めてますので、そこが、プラスに働いていくのではないかと、未来のプラスアルファで、人が増えていくって可能性はないのでしょうかという考え方もあります。人が少なくなっていくますよってということじゃなくて、ここは、少しずつ増えていく町づくりをすることができないのかなと思います。そこに目標を持って、

「子育てするなら山元町」という大きなキャッチフレーズを打ち出しているわけですから、少なくなる推移を見せて、どうなのかという意見を求めるのはいかなものなのかと、純粹に感じます。比較的今はこうだけど、この数字をプラスにするために、この施策があって、みんなで取り組んでいるのではないかと、できればそういう町づくりの、前向きな方向で、やってほしいっていう気持ちもありますし、自分もそれに力が出せるのであれば、力を出していきたいと思えます。

【教育委員】（大内委員）

私は、逆に、このデータを忠実に、念頭に入れて施策は考えるべきだと思います。将来的に確かに努力は必要かもしれませんが、現実の推計です。これにプラスアルファを上乗せしても、この傾向は変わらないと思います。100人、200人増えていくなら別ですがあまり期待できないのではないかと思います。施策としては、この数字を現実的なものとして、検討していかなければならないと思います。

【教育委員】（荻原委員）

私は、小学校は、やっぱり地元で、それぞれ、あった方が子どものためというか、通学に関してもですが、子どもの声が、町から運動会の声とか消えてしまったら、お年寄りにも寂しい町になっていってしまうのかなと感じます。中学校は、やはり一つにして、もうちょっと幅のある、厚みのある活動ができた方が、子ども達にはいいのかなと思います。

【議長】（齋藤町長）

齋藤委員、いかがでしょうか。

【教育委員】（齋藤委員）

私は、大内委員がおっしゃったように、この推移を見て、将来をそれなりに想定しながら布石を打っていくということが大事だと思います。この数字から想像すると、どうしても縮小せざるをえないというのが現実だと思います。その時には、どういう通学路を考え、どういう方法で学校に通うようにしたらいいかっていうことで、一つはスクールバスの問題とか、そのようなことを考えながら、学校数について考えていけばいいのではないかと思います。人数が少ないのであれば、少ないなりの良さ、多ければ多いなりの良さがあると思いますが、3.11の時のことを考えると、学校は、地域の中心になって動いたので、学校をなくしたくないというのは正直な気持ちです。その地域にあって、いざという時に学校が中心になって、地域の人と協力しながらやっていくということが大事だと思います。しかし、子どものことを、人数とか考えた場合、それはもちろん一理あるのですが、本当に子ども達にとっていい教育って何かっていうことを、もう一度原点に戻った時に、やっぱり、切磋琢磨する人数、多い人数がいて、色んな人を見て、ああいう人もいる、ここいう人もいるってことで、子どもにとってはすごく刺激になると思います。なので、やっぱり、ある程度の、それなりの人数の学校づくりってというのが、必要なんじゃないかなというふうに考えます。ですので、学校は、中学校一つ、小学校もそれなりに集約して、通学は、スクールバスなどの対応というのが、今の段階ではベターかなと考えます。

【議長】（齋藤町長）

大変重要な問題でございますが、まだ他の議題もございますので次に進めたいと

思います。

それでは、2の生涯学習施設の整備についての概要を、事務局から説明させます。

【事務局】（齋藤生涯学習課長）

それでは、生涯学習施設の整備について、簡単に説明申し上げます。

まず、1点目、（仮称）坂元地区地域交流センター建設についてですが、平成29年8月の完成に向け、今年8月頃から本格着工予定になっております。

これまで、6回の住民懇談会等を開催しまして、地域の皆様のご意見を十分に反映した設計になっており、坂元公民館及び坂元支所機能の移転も含め、今後の坂元地区の中心的な交流センターになるよう、業務を進めていきたいと考えております。今現在、模型を坂元支所に掲示しておりまして、多くの方々から好評をいただいているところです。

次に、2点目の中浜小学校震災遺構保存活用についてですが、遺構保存に関する提言書、本日、資料に付け加えさせていただきましたが、これに基づき、整備方法や維持管理手法等の計画を今年度策定し、その後、町民の皆様からのご意見をいただきながら、整備方針を固め、震災の脅威を伝える施設として、活用していきたいと考えております。

次に、3点目のパークゴルフ場整備計画についてですが、今年度は、ニーズを踏まえた必要規模や敵地選定等の検討を行うなど、基本計画を策定する予定にしております。

概要で、簡単ではございますが、説明は以上のとおりでございます。

【議長】（齋藤町長）

ただ今の説明について、意見交換をお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

交流センターは、6月の議会、間もなく来月の8日から始まりますが、そこで、建設工事に係る本契約の議決を頂く予定ですが、順調にいけば、坂元は8月の頭に、山下は、8月中には着工になるのではないかと思います。来年の8・9月頃までに完成をする予定としております。

【教育委員】（荻原委員）

2点目の中浜小学校の件なんですけど、広島原爆ドームなどは募金を求めて、募金で、保存するための工事を3回ほど実施してきたと聞いたんですけど、維持費などは、町でかなりの負担になると思うのですが、募金というわけではないんですけど、もっと他からの支援を受けるなどのお考えはないのでしょうか。

【事務局】（齋藤生涯学習課長）

はい。震災遺構につきましては、提言書にありますとおり、復興整備にも維持管理に負担のかからないようにということを基本に、今年度、どれくらいの維持管理がよろしいのかということで、調査を6月の指名委員会にかけて、業者にこれらの業務を委託しようと考えております。工事費については、災害ということで、復興交付金を活用して整備となります。

【議長】（齋藤町長）

外部からの支援はどうでしょうか。

【事務局】（齋藤生涯学習課長）

外部から支援についても、かかる経費がどれくらいのものになるのかというのが、大体12月頃にはわかると思いますので、それらについて、外部支援ということも、必要に応じて手当てをする必要があると、担当課としては考えております。

【議長】（齋藤町長）

そうしますと、この資料でいくと、震災遺構としてどこまで残すべきなのかというところで、建物を解体する費用は、国の方から交付金でできますが、ここに新設の建物という表記してある部分については、たぶん、支援対象は難しいということですね。そういうことで外部の力を借りるとか、場合によっては、これまで既に外部から寄せられた支援金が一定の金額ありますので、一部財源を捻出するというのも、財源を確保するというところで、一つの考え方だと思います。

その他、ございませんでしょうか。

なければ、時間も過ぎましたので、意見交換についてはこれくらいにして、3、4、5について。事務局からお願いします。

【事務局】（佐藤学務課長）

それでは、3番の教育振興基本計画の策定についてですが、計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、教育の振興のための施策に関する基本的な計画を策定するものであり、大綱の方に加筆しておりますが、この計画を、今年度、教育委員会で策定することにしておりますが、大綱にも影響があることから、総合教育会議の中で、今後意見交換の場を設けながら、整備、作成に努めていきたいと考えております。

このようなことで、本日は報告という形でご理解をいただければと思います。

【事務局】（齋藤生涯学習課長）

続きまして、4と5について、概要を説明します。

4の文化財関係の埋蔵文化財発掘に伴う出土土器、石器、馬具、装飾品、刀剣等の保存整理について、説明します。

平成22年度の常磐自動車道建設工事に伴う発掘調査から、現在の震災復興事業に

伴う発掘調査まで、約数万点の出土品があります。これらは、現在、保存整理作業を行っているところです。

現在の作業棟では手狭になっており、担当課としましては、今後、本格的な整理作業を行う「作業棟」と調査完了した出土品の「保管（収蔵）庫」の確保が課題となっています。

「保管（収蔵）庫」整備につきましては、今年度を目途に収蔵点数の精査推計をおこない、建設規模を確定した後、復興予算、いわゆる効果促進事業ですが、確保に努めたいと考えています。

引き続き、その他として「社会教育・社会体育施設使用料の在り方検討」についてでございますが、現在、山下地区・坂元地区に整備予定の両地域交流センターの具体的運営方針等について検討を始めたところです。これに併せて、担当課としましては、既存の社会教育・社会体育施設使用料、いわゆる受益者負担の在り方について検討を行っているところです。

今後は、文化協会や体育協会等、利用団体の方々のご意見を伺うと共に、教育委員会として議論を進めていきたいと考えているところでございます。

以上で、概要説明を終わります。

【議長】（齋藤町長）

只今の3から5までの中で、皆様方から確認事項等がありましたら、お願いします。

【全委員】

なし。

【議長】（齋藤町長）

ありがとうございます。

それでは、次第の4の方ですが、本日、ご提案した議題以外で何かございましたら、意見をお願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

特に無しということよろしいですか。

【全委員】

はい。

【議長】（齋藤町長）

ありがとうございます。

今日は、非常に貴重なご意見や情報交換ができ、大変ありがとうございました。

本日の議題は以上となりますので、閉会とさせていただきたいと思います。
大変ありがとうございました。

【司会】

はい。ありがとうございました。

以上をもちまして平成28年度第1回総合教育会議を閉会といたします。

大変、ご苦労様でした。

なお、教育委員の皆さまにおかれましては、引き続き、定例会という予定になっておりますので、準備の関係上、ちょっとお時間をいただいて、この時計で、4時15分開会ということで、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。